

FRIENDS
WITHOUT A BORDER

Voice of friends

2017 spring & summer
ニュースレター Vol.41



医療功労賞受賞 赤尾和美が [第45回 医療功労賞]を受賞いたしました



▲晴れの舞台、金屏風の前に勢ぞろいした受賞者の皆さん



▲一人一人、受賞者の表彰が行われました。緊張の面持ちです



▲カンボジアやラオスの道なき道を歩み、山を越えて患者さんの元へ。医療のない村に希望を届けています

読売新聞社が主催する [医療功労賞] は、山間部や離島、発展途上国などの厳しい環境下で、長年にわたり地域に密着した活動を続けている医療従事者を讃える賞です。献身的に医療活動に取り組みながら、医療の届きにくい地域の医療水準を向上させ、普及に貢献したことが認められる人たちの中から、選考委員により選ばれます。

1972 年に設立され、45 回目を迎えた今年、フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN 代表の赤尾和美が、海外部門において、この賞を受賞いたしました。受賞理由として伝えられたのは、以下の通りです。

「カンボジアやラオスなど保健システムが脆弱な地域で、新たな医療の形作りに取り組んできた。1999 年にカンボジアでアンコール小児病院が開院する際には、医療スタッフの教育と技術指導に携わった。以来、貧しくて病院を受診できない人たちのために、訪問看護に力を入れ続けた。また、エイズ感染症の子どもたちによる自助グループ作りを支援し、リーダー養成を行った。ラオスでは政府と交渉し、2015 年のラオ・フレンズ小児病院の開院につなげた。同国でも栄養失調やエイズ感染者の訪問看護プログラムを開始し、合わせて現地スタッフの人材育成も続けている」

こうした活動が続けられるのは、フレンズの理念に共鳴し、ご支援していただいている多くの皆さまのおかげです。この受賞を励みとし、これからも、アジアの子供たちの笑顔のために活動を続けてまいります。

ごあいさつ

このたびは思いもかけずに医療功労賞という大きな賞を受賞することができ、たいへん驚いております。3 月 13 日に授賞式を終え、皇居で天皇皇后両陛下との拝謁をさせていただき、その賞の重みを実感いたしました。たくさんの方々からお祝いのお言葉をいただき、大きな力に支えられてここまで来られたことをしみじみと感じ、感謝の気持ちをかみしめました。

18 年間の東南アジアでの医療活動を通してたくさんのことを学びました。人生の核ともいえる時期に貴重な体験をすることができたのは、幸運に恵まれていたと思います。しかし、その間には少なからず家族へのしわ寄せがあったことは否めません。授賞式に同席した母には寂しい思いもさせてしまったな……という気持ちも浮かびました。今回のことが少しでも親孝行になつたらと思います。これを機に気持ちを引きしめて頑張っていきますので、よろしくお願ひいたします。

赤尾和美

ラオ・フレンズ小児病院 開院 2 周年記念式典を挙行

2017年1月25日、ラオ・フレンズ小児病院(LFHC)にて、開院2周年記念式典が執り行われました。式典には、ラオス政府関係者をはじめ、フレンズ創設者の井津建郎やフレンズUSAの理事、支援者など、多くの方々が参列してくださいました。

外来診療のみでスタートしたLFHCでしたが、入院病棟や手術室のオープンなどを段階的に拡張し、2年経った今、当初予定していたすべての部署がスタートを切っています。それと並行してスタッフも増加。経験や進度に合わせ、スタッフ教育のプログラムも多彩になってきました。2年の月日が病院をステップアップさせていると、参列の皆さんにも感じていただけたようです。

式典終了後に行われたのは、患者さんと付き添いの家族のためのフェスティバル。ジャグリングショーや紙の魚釣りコーナー、巨大なバルーンの滑り台など、あちこちで歓声が上がっていました。毎年恒例の栄養たっぷり“おじや”も振舞われ、お母さんたちには栄養についてのレクチャーも。

笑顔、笑顔で終えた1日。翌日からは3年目突入です。心のこもった、質の高い医療を提供できるよう、また一步一步、歩みを進めてまいります。

▶創設者の井津建郎からもお祝いのスピーチが

▼プロのジャグリングショーは子供たちを釘付けにしました



LFHC に日本人スタッフが着任

LFHC の日本人スタッフはこれまで赤尾看護師のみでしたが、昨年12月より、戴理江(タイリエ)さんが涉外・広報ディレクターとして着任しました。LFHC と地域社会・支援者・他団体との連絡窓口や、各種イベントの計画、フレンズ・ビジターセンターでの活動紹介やゲスト対応などを担っています。

理江さんから「LFHC と地域社会が共に活動する新しい企画をいつも練っています。地域の血液バンクと一緒に活動を行ったり、地元のレストランと寄付集めのイベントを行ったり、協力的な地域の方々の一員として活動することを楽しんでいます。病院のスタッフはそれぞれ違う役割を担っていますが、最終目的は皆同じ、ラオスの子供たちに高度な医療を提供する継続的な病院を作り上げていくために活動しています」と、近況が届きました。とても頼もしい新人スタッフです。

手術室その後

手術室は昨年7月にオープン。器材を揃えたり、スタッフを育成したりすることに時間とを要したことは、前号でお伝えしました。さて、オープ

ン後は順調に機能しているでしょうか？



もちろん、順調です！今のところ、ヘルニアやケガに対する手術が多いようですが、月に40件を超える手術が行われています。実践により得られる様々なことを吸収し、スタッフもたくましくなってきました。高度な手術に対応できるまでにはまだまだ時間がかかりますが、着実に成長しています。日々の研鑽の積み重ねこそが大切だと心に刻み、まずは目の前にいる患者さんに向き合っているスタッフを、これからも応援してください。

新生児室が大活躍

昨年10月にオープンした新生児室が、フル稼働しています。抵抗力の弱い新生児は感染症への配慮が必要で、母子共に、よりデリケートなケアを行わねばなりません。新生児室のオープン前は、一般病棟で気を配りながらケアをしている状態でした。独立した専用室ができ、より安全な環境を確保できたことは、とても喜ばしいことです。

また、オープンに当たっては、タイ日赤大学から新生児ケアの専門家を招聘し、1週間に渡る特別研修も行いました。講義と実



©Adri Berger

践を合わせた充実した研修内容で、受講した約20名のスタッフは、小さく弱い新生児にも自信を持って対応しています。

▶常に大忙しの新生児室



▲インター・ナショナルスクール出身で英語が堪能な理江さん。着任早々からフル回転の活躍ぶりです

 アンコール小児病院
開院 18 周年記念式典挙行



◀ 式典用の晴れ着をまとったスタッフたち。今や大所帯の AHC です

2017 年 1 月 27 日、アンコール小児病院 (AHC) にて、開院 18 周年記念式典が執り行われました。式典には、カンボジア政府関係者をはじめ、フレンズ創設者の井津建郎、日本の支援者グループ、フレンズ USA の理事と支援者など、多くの方が参列してくださいました。

フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーが設立し、運営を行っていた AHC は、2013 年に自立し、現在はカンボジア人により運営されています。1999 年の開院時は、ごく数人のスタッフと、ごく数人の患者さんでのスタートでしたが、18 年経った今、スタッフ数約 500 人、1 日の平均患者数約 500 人という、カンボジアを代表する大きな小児病院に成長しました。開院当初からのスタッフは、今や病院の中核を担っています。

楽しみながら支援活動！ 独自の方法でフレンズをサポートしてくれています

フレンズをご支援くださる形は多種多様。個人で寄付をくださる方、学生サークルの皆さん、職場で寄付を募ってくださる企業様、募金箱を置いてくださる方、ボランティアとして様々な作業を手伝ってくださる方々……。中には「自分たちが楽しんで、それを支援につなげたい！」と考え、応援してくださっているグループもあります。

「フレンズ応援団」は、以前フレンズ事務局のスタッフだった渡邊信子さんが発起人となって結成されました。楽しいイベントを計画し、その参加費の一部をご寄付いただいている。これまで催されたのは、[三崎のまぐろを食べに行こうツアー] [日光紅葉ツアー] [春の日黒川お花見散歩] などなど、気負わずに参加できる日帰りミニトリップです。フレンズのことを知つてほしい、フレンズでつながった人たちと仲良くなりたい、それらをかなえる場を作りたい、といった気持ちから発足を思ついたとのこと。

「Friends of Friends MATSUDO」は、フレンズ正会員の秋野千絵里を中心、千葉県松戸市を拠点として活動しているグループ。趣味の手作り雑貨を [チャリティー雑貨市] と

日本からご参列いただいた方は、フレンズ創設期よりご尽力いただき以来、継続して AHC にご支援をくださっている皆さまです。成長した病院とスタッフをご覧いただけたことを、現地スタッフも喜んでおりました。

フレンズの元から巣立った AHC ですが、フレンズは、今後も一支援者として AHC を支え、見守ってまいります。

ミャンマー支援を継続

フレンズ JAPAN は、ミャンマーの現地 NGO 「ゴールド・ミャンマー」と協力し、保健教育活動を行っています。農村部の子どもたちへの健康診断、衛生教育、母親向けの栄養教育などが主だった活動で、プログラムごとに成果や反省を確認しながら進めている状況です。ラオスやカンボジアの子どもたちと同様、ミャンマーの子どもたちにも思いを馳せてくださいよう、お願いいたします。



◀ 村のお母さんたちの中から講師役となるトレーナーを養成しています

Supporter

してカフェやイベントで販売し、売上金の一部をご寄付いただいている。ヘアゴム、ビーズアクセサリー、アイロンビーズの雑貨、布小物、ぬいぐるみなど、趣味の作品が支援につながるのが嬉しく、楽しいのだとか。

自分にも無理なくできること、自分に合った支援でフレンズとつながってくださるのは、とても嬉しいです。「こんなこと、してもいいですか？」といったご相談も大歓迎ですので、お気軽に事務局までお問い合わせください。



▼カフェの一角が雑貨屋さんに。作るもの、売るのも楽しい

▲『三崎のまぐろを食べに行こう』ツアーでの 1 コマ。まぐろづくしランチも大満足



2016年活動報告会

2016年11月30日／フレンズJAPAN事務局

2016年を振り返り、ラオ・フレンズ小児病院(LFHC)と赤尾看護師率いるアウトーチプログラム、フレンズJAPANの活動報告会を行いました。



▲報告会からそのまま忘年会へ

LFHCでは約2年をかけて予定されていたすべての部署がオープンしたこと、悪路に負げず遠方へも出向いているアウトーチプログラムの活動事例、国内ではクラウドファンディングに挑戦したり新しい形態のイベントを開催したりと、これまでとは違った試みに取り組んだことなどを報告。活発な質疑応答でも盛り上がりました。

報告会の後は、皆さんお持ちよりくださった手土産を広げ、恒例の忘年会へと突入です。平日の開催でしたが、スタッフの心配をよそに、学校帰りや会社帰り、たくさんの方にご参加をいただきました。

Act Against AIDS 2016【THE VARIETY】

2016年12月1日／日本武道館

世界エイズデーに合わせ日本各地でエイズ啓発活動を行っているAct Against AIDSの武道館イベント【THE VARIETY】が



▲世界エイズデーはAAAのコンサートに行こう！

開催されました。このイベントの収益金をラオ・フレンズ小児病院(LFHC)にご支援いただいています。

たくさんの
ミュージシャン

や俳優、コメディアンなど、ジャンル

を超えたアーティストが多様なパフォーマンスを繰り広げるAct Against AIDS【THE VARIETY】は、各種メディアの芸能ニュースでも毎年報じられているので、ご存知の方も多いのではないかでしょうか。歌あり、ダンスあり、笑いあり。さらにはスペシャルなコラボレーションもあり。一夜限りの、特別で極上な音楽イベントです。最初から最後まで息つく暇もないほどの楽しさと感動にあふれるこのイベントは、チケットを購入してその場にいることがそのままチャリティーにつながります。

会場の外にはLFHCの活動を紹介するブースが設けられ、また、イベントの中でも、LFHCの紹介と、支援金がどのように活かされているかの報告が行われました。

Act Against AIDS 2016 in 五所川原

2016年12月2日／五所川原第一中学校

Act Against AIDSが青森で開催しているAAA青森。『みんなは大切な宝物』をテーマに、青森出身のボーカルデュオ・サエラさんのコンサートと赤尾看護師の講演で構成されたイベントです。同会場で3年連続開催として企画され、今回はついに3年目を迎えるました。赤尾は、命の尊さとエイズの知識を、3年生の生徒に向けて講演。最後には生徒たちによる『ふるさと』のアカペラ大合唱もあり、それぞれが皆、心を震わせるイベントになりました。

このイベントは、教職員の方々にも生徒の皆さんにも毎年好評で、継続を期待する声や、大人向けにも行ってほしいというご要望もいただいています。今後については未定ですが、この経験をこれからイベントにも活かしていくべきだと思っています。



▲青森でのAAA。3年連続企画の3年目でした

ラオスを知ろう ルアンパバーンのナイトマーケット

ラオ・フレンズ小児病院があるルアンパバーンは、街全体が世界遺産に登録されている国内有数の観光地です。ツアー客が旅行のお土産を見繕うのに最適なのが、毎日、夕方から夜10時頃まで開かれているナイトマーケット。街の中心部、約500mの通りがテントで埋め尽くされ、多くの観光客が集います。

広げたシートの上には、それぞれの店がぎっしりと並べた物！物！物！民族ごとの刺繡製品、銀製品、アクセサリー、バッグやポーチなどの布製品、Tシャツ、ペーパークラフト製品、竹かご製品、手書きの紙袋や布袋に入ったコーヒー＆ハーブティー、ぬいぐるみ……。手作り品が多いため、ほとんど同じ物がないのも興味深

いところ。似た店であっても、皆、微妙に違っているんです。通りを歩けば、まるで宝探しをしているような気分に。

ナイトマーケットのもうひとつ楽しみは、何と言っても価格交渉。「あっちのお店はもっと安かった」「まとめて買うから安くして」など、会話しながら値切る楽しさを味わいたいものです。

▶カラフルなお店がぎっしり。
眺めるだけでも楽しい





フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーの基本理念は“Compassionate care(すべての患者さんを自分の子供と思ってケアする)”ということです。それを毎日の業務の中で伝えていくのが私たち外国人の一番大きな役割ですが、これが浸透するのは、相当時間がかかることでもあります。それが、最近『ん？いい感じ！』ということがあって嬉しくなりました。ブンミー医師が

その一人。先日、当LFHCでは確定診断がつかないZちゃんを首都のビエンチャンにある病院へ紹介することになりました。家族にはビエンチャンへ行くほどの経済的余裕はないことが院内の経済アクセスメントでわかつていたので、交通費を病院が負担することにな

りました。…が、しかし、Zちゃん家族はビエンチャンのような都会へ行ったことがなく、不安をあらわしていました。その表情に気が付いたブンミー医師は、ちょうど4日間のオフが予定されていたので、「一緒にビエンチャンへ行きましょう」と付き添い役をオファー。一緒に長距離バスで病院まで行き、先方の病院へ無事引き渡すことができました。残りの3日間も病院へ出向いたり、電話で状況を確認し、またルアンパバーンに戻る前には友人にZちゃん家族のことをお願いしてくるという行き届いた対応に、Zちゃん家族も安心して医療を受けることができたようです。実はZちゃんの病状は悪性疾患の疑いがあったのですが、ビエンチャンでちゃんと精密検査を受け適切な治療を受けることで、今は完全に回復し、LFHCにフォローアップ受診で来た時には、とても晴れ晴れとした表情でした。ブンミー医師は、医師学校に入学するための試験に2度落ちてしまったそうです。でも、どうしても医師になりたいという気持ちがあり、2年間の独学の末、合格。今は本当に仕事が楽しいと言っていました。こんな医師がたくさん増えてもらいたいですね！どこかで偉そ～にしているあなた！患者さんはちゃんと見ていますよ。〈ラオス2016年9～10月の出来事より〉

赤尾

kazumi akao
和美 看護師の

「今月の出来事」から

患者さんのお話です。13歳のMちゃんは、ランプの灯が蚊帳に移り、下肢に大やけどを負いました。傷が回復するには長い時間が必要でした。街から離れた村で暮らしていたMちゃんにとっては、どんなに病院で手厚いケアを受けたとしても、やっぱり村での家族との暮らしが恋しいのです。院内では、できるだけ早く退院できるようにと、傷の処置が自分でできるようMちゃんに教えることにしました。そして、何度も練習を重ねてやっと本人も私たちも『大丈夫』と自信が持てるようになりました。退院です！家では1週間に1度傷をきれいに消毒して、新しいガーゼで覆う作業をやらなければならないので、ガーゼ、包帯、洗浄剤、手袋などたくさん持って帰ることになりました。数か月の入院を終えた晴れての退院日は、病院の車で近くまで送ることにしました。車に乗り込んだMちゃんは、にっこり。ホント嬉しそうでした。とはいっても、2週間後には傷の手当てがきちんとできているか、傷の回復は順調かを見に行く予定していました。しかし、運悪く数日間の大雨でMちゃん宅への道が閉ざされてしまい、訪問する道はただ一つ、車+ボート+徒歩を使う迂回路しかありません。6時に病院を出発し、山を4つ越えてやっと到着したのは12時半でした。到着したらホッとしてしまい何をするのか一瞬忘れてしましたが、早速Mちゃんに目の前で傷の手当てをしてもらいました。消毒の仕方をおさらいして、傷の状態を確認。傷は順調に回復していました！1か月後には病院へ来てもらわないといけないけど、まずは一安心！

それにしても、こんな道を来なければ医療にかかれないとるのは、やっぱり医療は遠い。病院で簡単に「もっと早く来なくちゃだめよ」などとナンセンスなことを言う医療者を作つてはいけないなと思います。私たち医療者も『知らないことを知らない』と常に念頭に置いておかなくちゃ。〈ラオス2016年11～12月の出来事より〉



▲2時間の車の後、小さなボートに乗り継ぎ



▲川をザブザブー



▲もうひと山…
うひゃ～！



▲稲刈り風景を横目に
さらに前進、前進！

ちょうどマラソンの時期にいつも来ラオスして LFHC のためにチャリティーコンサートを開催してくださっているのが、栗コーダーカルテットとお仲間のみなさん。栗コーダーカルテットと言えば、あの『ピタゴラスイッチ』のかわいらしい音楽で有名ですね。知らない人はいないというほど。今年はローカルアーティストの“カオニヤオ”的パフォーマンスもジョイントし、さらに子供たちの心をがっちりとつかんでいました。ぜひ、たくさんの子供たちに観てもらいたいなと思いました。

（ラオス 2016年9~10月の出来事より）



今年も恒例ヘアーデザイナーさんのボランティア軍団が来ラオス！3日間それぞれ違う村へ行きましたが、合計400名を超える子供と学校の先生、父兄さんの髪切り完了です！一人カットし終わるとすぐに次の子が席に付き、暑い中、立て続けに何十人も切り続けです。女の子はあまり切りたがらないでいたのですが、一人が思い切ってショートにしたことを「わ～！かわいい～！」とみんなが称賛したら、そこからは次々と「短くしてください」とショートヘアが大流行してしまいました。ふふ。シラミがたくさんいたので、短くした方が退治しやすいので、良かったです。この作戦、来年もやってみましょう。皆さん、ご苦労様でした。来年もよろしくお願ひいたします。

（ラオス 2016年11~12月の出来事より）

下の写真は、HIV検査のカウンセラーの研修で、ロールプレイをしている様子です。HIVに限らず検査前には十分に患者さんへ説明をするべきですが、HIVは陽性であった場合、そのインパクトがライフスタイルや人生に与える影響がとても大きいので、必ず検査後にカウンセリングをすることが義務付けられます。臨床心理のカウンセリングとは違うので専門的に心理学を学ぶ必要はありませんが、それでも、見えない心のことを理解しなければなりません。見えないものを学ぶのはとても大変です。文化の違いもあるし、言葉の壁もあるので、どこまで伝わるかなと思いましたが、半日×5日間でじっくりと学んでもらいました。そして、研修最終日には習ったことの総まとめとして、ロールプレイで少しでも実感する時間を作りました。最後の感想は「難しい・・・」でしたが、難しいのだといふことが分かっただけで目的達成です。これから実際の経験の中で、さらに学びを固めていってもらえたらしいと思います。

（ラオス 2016年11~12月の出来事より）



▲ロールプレイではなかなかの名演技

LFHC では新たな業務として予防注射を始めました。来院した患者さんすべてに予防注射の有無を確認し、最新の状態になっていない場合には接種します。この業務を開始するにあたり、LFHC のケオ看護師、ジュ看護師、アンポン看護師が県立病院で行われた研修に参加し、正式に開始することを許可されました。LFHC に来ている患者さんは、予防できる病気で苦しんでいる子供たちがたくさんいます。少しでもこれで、病から遠ざけることができたらいいですね！（ラオス 2016年11~12月の出来事より）



▲右からアンポン看護師、ジュ看護師、ケオ看護師

ご支援について

フレンズの活動にご支援をお願いいたします。

ご支援の方法をお選びいただけます。

●一般賛助会員：年会費 1口6,000円

●学生賛助会員：年会費 1口3,000円

●一般寄付 金額・回数自由

●正会員 年会費 個人12,000円

団体・法人30,000円

* ご支援いただいた方には、年2回発行のニュースレター、報告会やイベントの案内等をお送りします。

* 正会員は、総会において、団体の意志決定にご参加いただけます（委任状可）。正会員になるためには、当法人が定める入会申込書の提出が必要となります。別途お問い合わせください。

入金方法をお選びいただけます。

●郵便口座

加入者名：特定非営利活動法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN

振替番号：00160-0-546217

●銀行口座

銀行名：三菱東京UFJ銀行 中目黒支店

口座番号：普通預金0420041

口座名：トクヒ）フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダージャパン

●クレジット決済

インターネットを通じて、クレジットカードでご支援いただくことができます。フレンズJAPANのホームページwww.fwab.jpにアクセスして右上の「寄付をする」をクリックし、手順に沿ってお手続きください。

* 寄付金控除が可能な領収証の発行方法が変わりました。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

* 銀行からのお振込みや、ご自身の郵便口座より直接送金される場合、送金者を特定することができません。お手数ですが、お電話またはメールでご連絡をお願いいたします。

* アンコール小児病院（カンボジア）に限定したご支援をご希望される方は、その旨を電話またはメールでお知らせください。振込用紙をご使用の場合は、備考欄にその旨をご記入願います。

Information

[Readyfor]へのご協力をお願いします

インターネットを通じて多くの方の支援を仰ぐクラウドファンディングの[Readyfor]に、今年もチャレンジしています。今回のプロジェクトは、ラオスの現状では根治不可能な病“サラセミア”に苦しむ子供とその家族を救うために企画しました。

ラオスで多く見受けられる遺伝性の血液疾患

“サラセミア（地中海貧血）”は、極度の貧血状態に陥る病です。症状が現れた際は、対症療法として輸血をするしかありません。その費用は小さくなく、病を抱えた子供の家庭では、食うや食わざの生活を送りながら、費用を捻出しなければならないのです。

Readyforにチャレンジすることで、治療に不可欠な輸血費用と、繰り返しの輸血により体内に蓄積してしまう鉄分を測定する器械の購入費300万円を賄いたいと考えています。どうかご支援を、よろしくお願い申し上げます。

Readyforに関する詳細は、チラシをごらんください。



www.fwab.jp

特定非営利活動法人
フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN

〒103-0001

東京都中央区日本橋小伝馬町16-8
共同ビル7F

TEL/FAX : 03-6661-7558

friends@fwab.jp

Friends Without A Border

1123 Broadway, Suite 1210
New York, NY 10010 USA

TEL : 212-691-0909

FAX: 212-337-8052

Lao Friends Hospital for Children

P.O. Box 873, Luang Prabang, Lao PDR
TEL: 856-071-254-247